

次に、
特別会計・事業会計の
決算状況を見てみよう！

特別会計・事業会計は、一般会計と区分し
特定の収入と支出で経理を行なう会計です。

(※万円未満は端数調整あり)

会計名	歳入	歳出	歳入歳出差引額
十王財産区特別会計	556万円	300万円	256万円
下水道特別会計	6億5,142万円	6億2,426万円	2,716万円
国民健康保険特別会計	15億2,558万円	15億1,445万円	1,113万円
農業集落排水特別会計	1億4,796万円	1億4,186万円	610万円
介護保険特別会計	16億6,445万円	15億9,725万円	6,720万円
後期高齢者医療特別会計	1億5,020万円	1億4,839万円	181万円
水道事業会計〈収益的収支〉	3億935万円	2億7,402万円	3,533万円
水道事業会計〈資本的収支〉	1,500万円	1億3,918万円	▲1億2,418万円
病院事業会計〈収益的収支〉	10億9,531万円	11億3,076万円	▲3,545万円
病院事業会計〈資本的収支〉	4,413万円	1億4,039万円	▲9,626万円
訪問看護ステーション事業会計〈収益的収支〉	2,731万円	3,371万円	▲640万円
合計（一般会計を含む）	154億2,476万円	147億3,543万円	6億8,933万円

平成30年度は、共創のまちづくりの理念のもと、人口減少対策や地方創生に向けた施策を展開してきました。

一般会計における決算は、前年度に比べ歳入総額で1億9,977万円（1.1%）、歳出総額で1億6,535万円（1.9%）上回る結果となり、収支差引は8億33万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができる町税などの**自主財源**は、税収入の39.5万円の増や、繰越金の増などにより、前年度に比べ約1億5,588万円の増加となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債（借入金）などの**依存財源**も、約17,900万円の増加となりました。

歳出については、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、扶助費（住民福祉経費）が約33,480万円、公債費（借入金返済）が約3,040万円の増加となりました。義務的経費以外の**任意的経費**では、普

通建設事業費（公共・公用施設の整備経費）が、まちづくり複合施設整備事業の増などにより約2億5,885万円の増加となりました。そのほか、今後見込まれる財政需要等に備え、減債基金（将来の借入金返済に備える基金）に1億円の元金積立を行いました。

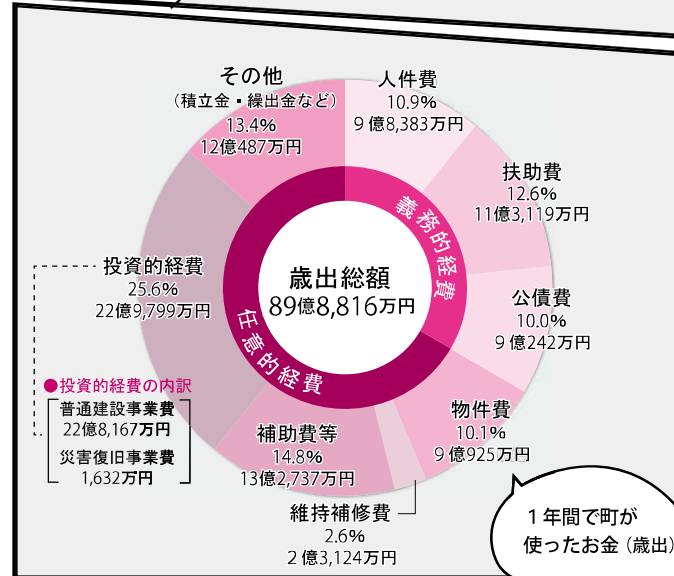
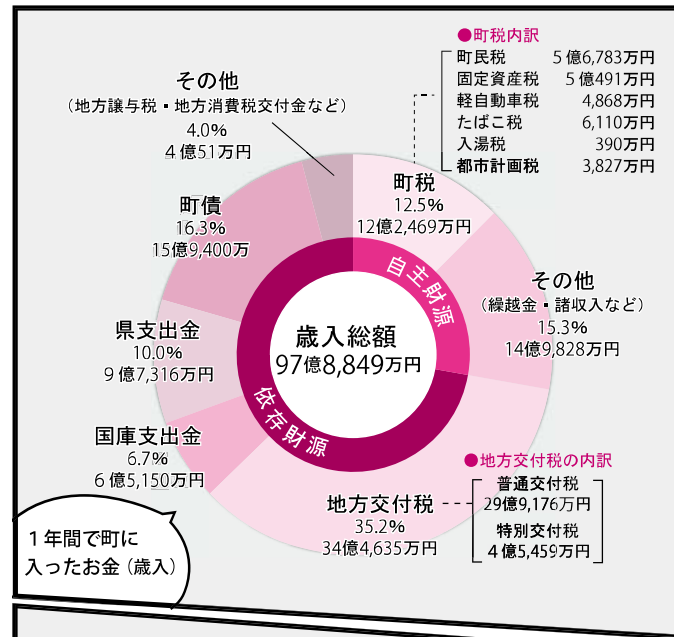
持続可能で健全な財政運営を基本とした取組を進めています。また、投資的経費の増加により地方債（借入金）残高が増加し、また、国から配分される地方交付税と国や県の補助金などへの依存度が高く、自主財源の確保が大きな課題となっております。

引き続き、計画的な行財政改革の推進に努め、より良いまちづくりを進めていきます。

では、具体的にどのようにお金が使われたのか、
気になる中身を次のページで見てみよう！



一般会計の決算内訳がコチラ！



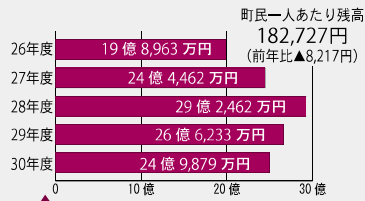
皆さんに報告したい大切な税金の使い道がわかる！

平成30年度の
決算を報告します。

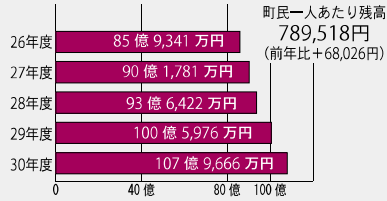


基金と地方債の残高状況を見てみよう!

●積立基金(貯金)残高の推移



●地方債(借入金)残高の推移



今この白鷹町の財政状況はどうなっているのかなあ?

主な基金(積立基金)の積立状況

名称	金額
財政調整基金	9億542万円
減債基金	4億648万円
公共施設整備基金	8億34万円
体育館建設基金	1億979万円
福祉振興基金	1億463万円
その他の基金	1億7,213万円
積立基金合計	24億9,879万円

「基金」とは?

町の預貯金のことです。財源不足に備えるための財政調整基金のように特定の目的のために積み立てるもの(積立基金)のほか、特定目的のために定額の資金を運用するためのもの(定額運用基金)があります。

公営企業における資金不足比率について

水道、町立病院、訪問看護ステーション、下水道、農業集落排水の全会計について、資金不足は発生していないため比率はありません。

平成30年度決算に基づく町の状況は、下記のとおりすべて基準を下回りました。引き続き健全な財政運営に取り組んでまいります。

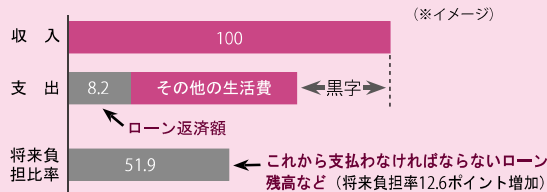
■健全化判断比率(速報値)

(単位:%)

比率名	本町の状況	早期健全化基準	財政再生基準	参考: 昨年度の状況
①実質赤字比率	— (赤字なし)	15.00	20.0	— (赤字なし)
②連結実質赤字比率	— (赤字なし)	20.00	30.0	— (赤字なし)
③実質公債費比率	8.2	25.0	35.0	7.5
④将来負担比率	51.9	350.0		39.3

①実質赤字比率: 1年間の家計に占める赤字の割合 ②連結実質赤字比率: 2世帯住宅などの場合、それぞれの世帯の家計を合算した家族全体での1年間の家計に占める赤字の割合 ③実質公債費比率: 年収に占めるローン返済額の割合 ④将来負担比率: ローン残高や生命保険の支払いなどが年収の何年分に相当するかを示した割合

それぞれの比率を家庭に例えると...



ある家庭の1年間の収入(100)に当てはめてみました!

実質公債費比率・将来負担比率ともに増加
平成30年度決算に基づく「健全化判断比率及び資金不足比率」を公表します!

平成30年度は、このようにお金が使われました!



歳出を町民一人あたりでみると
総額 65万7,270円(+1万2,090円)

※町民一人あたりの金額は、平成31年3月31日現在の町の住民基本台帳人口1万3,675人で割ったものです。

民生費

民生費とは、障がい者や高齢者に対する福祉、子育て支援などのための経費です。

使われたお金…20億1,847万円

→町民一人あたり…14万7,603円(前年比▲1万3,507円)

ひがしね保育園での乳児保育の実施等に向けた施設改修及び通園バスの更新に対する支援を行うとともに、出生祝い金を贈呈するなど、子育て環境の充実・支援に取り組みました。

衛生費

衛生費とは、母子保健、医療、環境などのための経費です。水道事業会計、病院事業会計への支出も含まれます。

使われたお金…5億4,144万円

→町民一人あたり…3万9,594円(前年比+1,650円)

各種検診等の実施により健康寿命の延伸に努めたほか、新たに「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠時から子育て期までのさまざまなニーズに対し、切れ目ない支援に取り組みました。

農林水産業費

農林水産業費とは、農業・林業・水産業振興の事業のための経費です。

使われたお金…6億1,259万円

→町民一人あたり…4万4,796円(前年比+4,859円)

基幹的産業である農業の担い手育成支援とともに、森林整備と森林資源の利活用に向けた森林境界明確化事業や分収林整備事業に取り組みました。

工商費

工商費とは、商工業振興、観光振興などの事業のための経費です。

使われたお金…3億1,252万円

→町民一人あたり…2万2,854円(前年比▲768円)

紅花を核とした更なる生産・観光振興を図るとともに、がらばる商店応援事業や町産材等木造建築推進事業による消費需要の喚起と町産材の利用促進に取り組みました。さらに、企業立地促進事業により雇用拡大を図るとともに、新たに若者移住定住支援交付金を交付しました。

土木費

土木費とは、道路、橋、河川、公園など、まちづくりのための経費です。

使われたお金…6億9,475万円

→町民一人あたり…5万8,055円(前年比▲1万1,988円)

町道や橋梁の長寿命化工事を行うとともに、住宅のリフォームに対する支援や若者世代の定住促進のための住宅施策等に取り組みました。

教育費

教育費とは、学校教育や生涯学習の充実、スポーツ等の振興のための経費です。

使われたお金…7億6,418万円

→町民一人あたり…5万5,881円(前年比▲2,670円)

学校教育では、英語教育の推進、指導体制の充実ほか、部活動指導員配置等に取り組みました。スポーツ関係では、2020年東京オリンピック・パラリンピックホストタウン交流事業や東陽の里グランド南側駐車場整備に取り組みました。

公債費

公債費とは、地方債を返済する元利償還金と一時的な借入をした場合の支払利息のことをいいます。

使われたお金…9億242万円

→町民一人あたり…6万5,991円(前年比+223円)

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済などに使われました。

その他

総務費、消防費、議会費、労働費、災害復旧費などです。

使われたお金…31億4,179万円

→町民一人あたり…22万9,746円(前年比+3万4,291円)

総務費では、まちづくり複合施設整備事業を着実に進めるとともに、地域おこし協力隊の活動支援などを行いました。また、消防費では、小型ポンプ積載軽自動車配備などを実施しました。これらのほか、議会費、労働費、災害復旧費に使われました。



平成30年度に実施した主な取組(抜粋)

- 1_施設改修が行われたひがしね保育園
- 2_中国ソフトボールチームと交流
- 3_移住相談会の様子